

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（6）こころの教育、体験・学習機会の充実

施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	事業概要	R2年度の取り組み計画	R2年度の主な実績	【Do】実施						評価	評価の理由(分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性	決算	担当課	
							活動指標											
							区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度						
6	1	62	心の教育推進事業	<p>「特別の教科 道徳」（道徳科）の授業の充実を図るとともに、伝統文化や異年齢・地域交流など豊かな体験を通して、児童生徒が自己の生き方についての考え方を深める道徳教育を推進するとともに、教育活動全般を通じて道徳性を養う取り組みを進める。</p> <p>また、豊かな情操を養うため、感受性の豊かな中学生に対して、芸術性の高い演劇・音楽・美術などの鑑賞の取り組みを行う。</p> <p>先人の業績および郷土の自然や歴史を盛り込んだ校歌・市歌などを通して郷土への愛着を深める取り組みを進める。</p>	<p>①道徳教育推進指定校 小学校14校 中学校 7校</p> <p>②スクールコンサート 中学校4校</p> <p>③芸術鑑賞教室 中学校11校 特支学校2校</p>	<p>①道徳教育推進指定校 小学校0校 中学校0校</p> <p>②スクールコンサート 中学校4校</p> <p>③芸術鑑賞教室 高等学校1校 中学校13校 特支学校3校</p>	②③実施校数	現状値 と水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	やや遅れ	<p>・①はコロナ禍により、文科省事業が中止されたため未実施。</p> <p>・②③はコロナ感染症対策を講じた上で実施。</p>	<p>・今後も感染症対策を講じた上で実施し、児童生徒の心の教育を切れ目なく行う。</p>	<p>児童・生徒の心の教育推進事業 SDGsの視点を踏まえた地域教材作成事業 子どものシビックプライド育成事業 北九州市小・中学生合唱フェスティバル 心の教育推進事業 中学校標準運営費の一部（芸術鑑賞教室） 学校・家庭・地域パートナーシップ事業の一部（あいさつ運動） 部活動振興事業</p>	<p>※太字が評価を記載した課</p> <p>教育委員会・学校経営・教育指導課・生徒指導・教育相談課、学事課</p>	
							【現状値】	②5校 ③25校 (R元年度)										
							【目標】	現状維持										
							達成率	55%										
							計画目標	55%										
6	1	63	人権教育推進事業	<p>学校教育においては、生命の大切さを学び、自尊感情や他の人よりよく生きようとする意識、集団生活での規範を尊重し、義務や責任を果たす態度など、「生きる力」を育む教育活動を推進する。</p> <p>人権教育は学校等が行うすべての教育活動の基盤となるものであり、個々の人権を尊重し、子どもの実態や発達段階を踏まえ、学校・園の教育活動全体を通じて取り組む。</p>	<p>①人権教育研修資料の活用</p> <p>②人権教育視聴覚教材等の活用</p>	<p>①校内研修等で、「人権教育ハンドブック」「わたしたちの同和問題」等の資料を活用し教職員の人権意識の高揚を図った。</p> <p>②特別な教科道徳や特別活動等で人権教育視聴覚教材等を活用し、児童生徒の豊かな人権感覚を育んだ。</p>	教育委員会の発行した人権教育研修資料を活用した研修実施校数	現状値	全校	全校	全校	全校	全校	順調①	<p>・コロナによる臨時休校により夏季、冬季休業日の短縮等、研修時間確保が難しい中、学校は、人権教育研修資料を活用した研修に取り組むことができた。</p> <p>・「人権視聴覚教材」は、道徳や特別活動（2）等と関連推進を図りながら活用することができた。</p>	<p>・人権教育研修資料を活用については、管理職研修会を通して周知するとともに、新任人権教育担当者研修会で、研修での活用方法を紹介することを通して、全校での活用を目指す。</p> <p>・「人権視聴覚教材」のよい活用例について学校に周知し、人権視聴覚教材活用の推進を図る。</p>	<p>人権教育推進事業</p>	<p>教育委員会・生徒指導・教育相談課</p>
							【現状値】	全校 (R元年度)										
							【目標】	全校										
							達成率	100%										
							計画目標	100%										
6	1	64	子どもの権利の周知・啓発	<p>「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」にうたわれた子どもの権利等について、子ども本人や保護者、子どもに関わる人たちなどに対し、周知・啓発を行う。</p>	<p>・子ども本人や保護者などに対し、周知・啓発を行うことを目的とした、啓発用シールを作成・配付</p>	<p>「子どもの権利」シールを作成・配布し、周知・啓発を行った。</p>	啓発活動の実施	現状値	実施	実施	実施	実施	実施	順調①	<p>小学6年生を対象に配布し、周知・啓発を行った。</p>	<p>引き続き、周知・啓発を行っていく。</p>	<p>子育てに関する情報提供の充実の一部</p>	<p>子ども家庭局・総務企画課</p>
							【現状値】	啓発用シールの配布 (R元年度)										
							【目標】	実施										
							達成率	100%										
							計画目標	100%										

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（6） こころの教育、体験・学習機会の充実

施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	事業概要	R2年度の取り組み計画	R2年度の主な実績	【Do】実施					評価	評価の理由(分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性	決算	担当課	
							活動指標										
							区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度						R6年度
6	2	65	青少年体験活動等活性化事業	青少年の「生きる力」や「豊かな心づくり」に欠かせない、自然体験や社会体験など、様々な体験活動の情報を集約し、タイムリーに発信するとともに、青年リーダーの養成などを通じて、さらなる青少年の健全育成環境づくりを進める。	①「キッズチャレンジ」の発行 ②青少年育成シニアリーダー会議「ぼんで」の開催	①6月、12月の2回発行 ②9回開催	青少年育成シニアリーダー会議の回数	現状値	9回				順調②	・体験情報冊子「キッズチャレンジ」（6月発行分）については、新型コロナウイルスの影響により、例年掲載の体験活動ではなく、「おうち遊び」を特集した。 ・青少年シニアリーダー会議については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会議の開催数は減ったが、青少年の健全育成の環境づくりに向けた協議を進めることができた。	次代を担う青少年が社会との関わりを自覚しながら、自己を確立・向上していきけるよう、青少年育成団体等と一層の連携を図り、青少年の体験活動の機会や場の創出に努める。	青少年体験活動活性化事業	子ども家庭局・青少年課
							【現状値】	11回 (R元年度)									
							【目標】	現状維持									
							達成率	81%									
6	2	66	青少年の家の運営	施設周辺の豊かな自然の中で、野外活動や集団生活などの体験を通して、規律、協同、友愛、奉仕の精神を学び、心身ともにたくましい青少年の育成を図る。また、身近でより安全かつ快適に利用できるように、青少年施設の環境整備を行う。	①学校受入事業の実施、施設を活用した主催事業の実施 ②青少年の家の継続的な利用に向け、計画的な補修工事等の実施	①参加人数 49,828人 ②大規模な補修工事については、順次計画的に執行。	青少年の家の利用者数	現状値	49,791人				遅れ	・新型コロナウイルスの影響で、中学校のふれあい合宿が中止となり、小学校の自然教室のみが主な事業となった。 ・新型コロナウイルス感染症に伴う施設利用制限のため臨時休館や宿泊不可となる期間が相当程度あった。	・感染症対策をより強化し、利用者が安心して活動出来る、施設利用の在り方を考える。 ・どの施設も老朽化が進み、修繕を要するが、一斉改修は困難なため緊急度に応じて順次補修工事を行う。	青少年施設管理運営費 青少年施設管理運営費（公共施設） 青少年施設運営管理事業（指定管理） 青少年施設建築物等定期点検調査 青少年施設環境整備事業 青少年施設老朽化対策事業	子ども家庭局・青少年課
							【現状値】	126,555人 (R元年度)									
							【目標】	増加									
							達成率	39%									
6	2	67	ユースステーションの運営	中・高校生をはじめとした若者が、学習や体験、スポーツ・音楽活動、仲間との交流等を通じて、自己を発見し、社会性や自立性を身に付ける場となるよう「ユースステーション」の運営を行う。 また、各区には学習やスポーツ・音楽活動を行うことができる施設もあり、若者のニーズを把握しながら、こうした施設の活用や情報提供のあり方について検討する。	①主催事業の充実 ②自主企画事業の支援	①主催事業実績52回（コロナウイルスの影響で中止になった回数除く） ②若者が利用できる施設の調査	ユースステーションの利用者数	現状値	15,309人				やや遅れ	新型コロナウイルス感染症対策に伴う施設の臨時休館や時間短縮なる期間が相当程度あった。	新型コロナウイルス感染症対策を講じるとともに、主催事業の工夫等により、利用者が参加しやすい事業の検討を行っている。	青少年施設運営管理事業（指定管理）の一部	子ども家庭局・青少年課
							【現状値】	29,425人 (R元年度)									
							【目標】	増加									
							達成率	52%									

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（6）こころの教育、体験・学習機会の充実

		【Plan】計画		【Do】実施						【Check】評価		【Action】改善		決算	担当課							
施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	事業概要	R2年度の取り組み計画	R2年度の主な実績	活動指標					評価	評価の理由(分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性	予算事務事業名	※大字が評価を記載した課						
							区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度						R6年度					
6	2	68	青少年ボランティアステーション推進事業	青少年の成長に欠かすことができない様々な体験活動等を通じ、青少年が社会構成員として、規範意識や社会性、協調性を身に付けることができるよう、青少年ボランティアステーションを拠点に、青少年のボランティア体験活動を支援、促進する。 また、ひきこもりや非行等の問題を抱える少年の社会的自立を支援するため、社会参加ボランティアプログラムを実施する。	①ボランティア体験活動の提供 ②ボランティア出前授業の開催	①提供件数140件 ②出前授業3件157名	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	【現状値】	6,943人 (R2年度)	【目標】	増加	半年度目標	現状値 比増加	前年度比 増加	前年度比 増加	前年度比 増加	前年度比 増加	遅れ	新型コロナウイルス感染症のためボランティアの活動機会が激減した。その中で清掃活動など屋外の活動を中心に2千人以上に対しボランティア体験活動を提供できた。	高齢化のため若い人の協力を求めている団体に向けてのPR等により、ボランティア活動の機会を開拓する。また、急なボランティア要請に対応できるよう、ホームページの紹介をしていく。	青少年ボランティアステーション推進事業	子ども家庭局・青少年課
							実績	2,329人	達成率	34%	計画目標	34%										
							達成率	34%														
							計画目標															
6	2	69	チャレンジ100キロ～歩け北九州っ若武者の旅～	心身ともにたくましい子どもたちの育成を目的として、80名の子どもたちが、市内の青少年施設に連泊しながら、市内の山々など100キロの行程を踏破する。	チャレンジ100キロの開催・運営	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	参加者数	【現状値】	80人(H30年度) ※R2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止	【目標】	現状維持	半年度目標	現状値 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	前年度比 同水準	遅れ	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業が「中止」となったため、「遅れ」と評価した。	活動プログラムの充実と、実施体制のさらなる効率化を図る。	青少年体験活動活性化事業の一部	子ども家庭局・青少年課
							実績	中止	達成率	0%	計画目標	0%										
							達成率	0%														
							計画目標															
6	2	70	子ども文化ふれあいフェスタ	日本舞踊やいけばななどの文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手としていくために、夏休み期間中に文化団体等が企画したワークショップ等を実施し、芸術文化に対する関心を高める。	地元文化団体等が企画したワークショップ等を実施する。	新型コロナウイルス感染症対策のため中止	アンケート満足度	【現状値】	94% (R2年度)	【目標】	現状維持	半年度目標	94%	94%	94%	94%	94%	遅れ	新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度は実施を見送ったもの。	令和3年度は感染症対策を行いながら事業を実施するとともに、引き続き企画内容の充実等、事業の検証に努めながら、事業目的である未来の文化の担い手の育成に向けて取り組んでいく。	優れた文化・芸術との“出会い”創造事業の一部	市民文化スポーツ局・文化企画課
							実績	中止	達成率	0%	計画目標	0%										
							達成率	0%														
							計画目標															

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（6）こころの教育、体験・学習機会の充実

施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	事業概要	【Plan】計画		【Do】実施						評価	評価の理由(分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性	決算	担当課	
					R2年度の取り組み計画	R2年度の主な実績	活動指標	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度						R6年度
					目標	実績			達成率	計画目標								
6	2	71	こども文化パスポート事業	地域の文化・歴史・自然に接することにより、豊かな心を育むとともに親子のふれあう機会を増やすことを目的として、夏休み期間を中心に、文化施設をはじめとするさまざまな施設に無料（一部割引）で入場できるパスポートを子どもたちに配布する。	夏休み期間中を中心に、文化施設をはじめとする様々な施設に無料（一部割引）で入場できるパスポートを子どもたちに配布する。本市、下関市、長門市、北九州都市圏広域行政推進協議会（中間市、遠賀4町）による共同事業として実施する。	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止。	利用者数 【現状値】 64,316人 (R元年度) 【目標】 パスポート配布者数の7割	半年度	パスポート配布者数の7割	パスポート配布者数の7割	パスポート配布者数の7割	パスポート配布者数の7割	パスポート配布者数の7割	遅れ	事業が実施できなかったため。	子どもたちの施設訪問のきっかけづくりとして、さらに魅力的な事業のあり方を検討する。ただし、令和3年度以降も感染状況等を鑑み、実施を判断する。	こども文化パスポート事業	※大字が評価を記載した課 教育委員会・企画調整課
								実績	0人									
								達成率	0%									
6	2	72	こども文化会館の運営	児童文化の普及や創作活動を促進することによって、幼少年代の子どもの創造力や表現力をはぐくみ、人間性豊かな青少年を育成するとともに、子育てについての支援を行う。	①児童文化の普及や創作活動を通して、子どもたちの豊かな情操を育てるため、演劇や生け花教室などの文化事業を開催。 ②児童文化施設の継続的な利用に向け、計画的な補修工事等の実施	①ファミリー人形劇場やこども落語寄席、こども演劇教室、こども生け花教室などの文化事業を開催した。 ②プレイルーム、図書室のLED照明化工事等の実施	こども文化会館の利用者数 【現状値】 32,889人 (R元年度) 【目標】 増加	半年度	現状値比増加	前年度比増加	前年度比増加	前年度比増加	前年度比増加	遅れ	①感染予防対策などのための閉館、定員制限、主催・共済事業の中止、団体・一般利用者の自粛等が利用者の減少に影響した。 ②計画的な補修工事以外に、冷房機器の故障など館の老朽化により、突発的に対応せざるを得ない工事が発生した。	児童文化施設管理運営費の一部 児童文化施設各種事業の一部	子ども家庭局・青少年課	
								実績	7,699人									
								達成率	23%									
6	2	73	博物館セカンドスクール事業	博物館を第2の学校（教育の場）として位置づけ、ミュージアムティーチャー（博物館勤務の教員）を配置し、体験学習の実施や学習プログラムの作成等に取り組み、理科・社会科への学習の意欲向上に資することにより博学連携を推進する。特に、「博物館への誘致事業」、「学校教育支援事業」、「家庭教育支援事業」の3つの柱をきかけ、学校教育現場と博物館の結びつきを強める。	博物館がセカンドスクールとして、子どもたちの来館機会を創出し、理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを進めている	学校団体誘致数 312団体	学校団体誘致数 947団体 (R元年度) 【目標】 50団体増加	半年度	現状値比10団体増加	前年度比10団体増加	前年度比10団体増加	前年度比10団体増加	前年度比10団体増加	遅れ	・コロナ禍において令和元年度より予約されていた団体等からキャンセルが相次いだ。 ・感染防止対策の観点から、休館措置をしたり、開館していても、入館者数を制限したりしていた。 ・開館中においても、団体での体験活動等の実施人数を制限したり、飲食スペースの人数制限等を行ったことから、大幅減に繋がった。	博物館セカンドスクール事業	市民文化スポーツ局・自然史・歴史博物館普及課	
								実績	312団体									
								達成率	33%									
								計画目標	31%									

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」主な取り組みの評価一覧

■ 施策（6）こころの教育、体験・学習機会の充実

		【Plan】計画				【Do】実施					【Check】評価	【Action】改善	決算	担当課			
施策番号	柱	取り組みNo.	取り組み名	事業概要	R2年度の取り組み計画	R2年度の主な実績	活動指標					評価	評価の理由(分析)	課題とそれを踏まえた今後の方向性	予算事務事業名	※太字が評価を記載した課	
							区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度						R6年度
6	2	74	環境教育推進事業	体験的な学習を通して環境に対する認識を深めるとともに、環境の保全等のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力の育成を図る。 ○小学生を対象とした「SDGs環境アクティブ・ラーニング」の実施	市内の希望校88校の小学校第4学年が「SDGs環境アクティブ・ラーニング」へ参加する。	小学校49校	小学4年生の「環境体験科」参加校数【現状値】	半年度	88校	90校	90校	90校	90校	やや遅れ	新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が出され、中止せざるを得なかった。8月後半～10月末までの実施期間となったため。	環境教育推進事業	教育委員会・学校経営・教育指導課
							92校 (R元年度)	半年度	49校								
							【目標】	達成率	56%								
							現状維持	計画目標	56%								
6	3	75	老朽化等の問題が深刻化している現在の児童文化科学館に代わる、「ものづくりのまち」に相応しい、新たな科学館の整備を進める。 【新科学館の基本方針】 ○テーマ 科学や技術への興味・関心を高め、北九州市の未来を担う人材を育む、賑わいを創出する科学館 ○コンセプト ①誰もが科学に興味を持つきっかけづくり ②技術系人材の育成 ③北九州の技術の発信 ④周辺施設と連携したにぎわいづくり、集客力アップ	イオンモール新施設が2022年(令和四年)春の開業を目標としているため、これに合わせて開館できるよう、調整を進める。 ・新科学館の実施設計に着手する。	令和2年12月実施設計終了	入館者数(新科学館開館後)	半年度	実施設計	整備	500,000人	500,000人	500,000人	順調①	実施設計終了後、令和3年1月に展示・内装・設備整備に着手した。	新科学館整備事業	子ども家庭局・青少年課	
						【現状値】	半年度	実施									
						【目標】	達成率	実施									
						年間50万人	計画目標	実施									